



あひるの小春日和

mikatuki98

お天気のいい日、小さな湖であひるが一羽のんびりと泳いでいました。湖の近くでは、人間の家族連れがバーベキューをしながら楽しそうに談笑しています。あひるは遠目にその光景を眺めながら、人間に飼われるなんて真っ平御免だ！と、飛び出して来た家に、今も残っているだろう兄弟姉妹や仲間たちのことをふと思い出していました。

「みんな元気してるかなあ～ まさか、もう人間に食われてしまっていないだろうなあ～」

と、その時、突然あひるの水かきがピクピクと痙攣し始めました。

「あ・あ・あ……痛い！」

あまりの痛さにあひるの身体はよじれ、ひっくり返ったせいで湖の水をガブガブと飲んでしまいました。あひるは鳥なのに溺れてしまいそうです。

「く・く・苦しい…… 誰か、た・す・け・て……」

そのように逸早く気が付いたのは、人間の家族連れと一緒に来ていた犬でした。犬は黄金色の被毛がフサフサとしたゴールデン・レトリバーで、ワンワンと吠えながら湖の中に入っていきます。泳ぎの得意な犬はあひるの側まで辿り着くと、パクリと水かきを啜え、気絶してしまったのか？首がダランとなったあひるをユッサユッサと揺らしながら、人間の家族の元へ運んで来ました。

「まあ～ ゴルバちゃんたら、あひるを捕まえて来たの？」

「ワンワン♪」

ママに褒められたと思ったゴルバは、嬉しそうに吠えています。子供たちも一斉にゴルバちゃんの元へ駆け寄って来て、グッタリしているあひるを不思議そうに眺めています。

「ねえ、このあひるさん、もう死んでるの？」

「ああ、多分、死んでるだろう…… 野菜が残ってるから一緒に煮込んで食べようか？」

普段の食卓でも時々あひるの肉が出てくるので、パパの提案に子供たちは無邪気に喜んでいきます。

「わあ～～～い♪ あひるだ、あひるだ」

「ワンワン♪」

ゴルバもはしゃいでる子供たちの様子を見て嬉しそうです。

「じゃあ、お鍋にお湯を沸かさなきゃね」

ママもニコニコ顔でお鍋にお水を注ぎます。ゴルバと子供たちもテンションが上がって来たのか、じゃれ合ってとても楽しそうです。

グッタリしたあひるの側ではお湯が煮えたぎり、サクサクと野菜を切る音がしています。

「さあ～お湯も沸いたし、野菜の準備も出来たぞ！ パパがあひるの毛を耨るから、あとはママに味付けをしてもらおう♪」

パパがあひるの脚を掴んで、いざ！毛を耨ろうとした瞬間、あひるはパチクリと目を開け、人間に逆さ吊りにされていることに気が付きました。

「キャーーーーー！」

正気に戻ったあひるは、人間のような悲鳴を上げ羽をばたつかせています。そして必死に抵抗していたあひるは精一杯の力を振り絞り、パパの腕に噛み付きました。

「イテテテテ！」

あひるのクチバシに思いっきり腕を挟まれたパパも思わず悲鳴を上げ、慌ててあひるを腕から振り落としました。

間一髪！ 人間の手からやっとの思いで逃れたあひるは、ガーッと湖の方へ走り去って行きました。

「……パパ、あひるさん生きてたね」

「ああ、生きてたね……」

「バウ……」

あひるにとっては、とんだ小春日和でした。